

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

新燃岳では、9月23日頃から火山性地震が増加しており、10月4日からは更に増加しています。4日に実施した現地調査及び5日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、これまでと同様、西側斜面の割れ目付近及び割れ目の下方で噴気と弱い熱異常域を確認しました。活火山であることから、火口内や西側斜面の割れ目付近では火山灰や火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので注意してください。引き続き地元自治体等が行う立入規制等に従ってください。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

新燃岳では、9月23日頃から火山性地震が増加しており、10月4日からは更に増加しています。求まった震源は、新燃岳のごく浅いところから海拔下1km付近に分布しました。

昨日（4日）実施した現地調査及び本日（5日）気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した新湯温泉付近からの現地調査では、これまでと同様、西側斜面の割れ目付近及び割れ目の下方で噴気と弱い熱異常域を確認しましたが、特段の変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、4日20時頃に噴煙が火口縁上100mまで上がりましたが、その後は火口縁を越える噴煙は認められません。

火山性微動は2017年6月12日以降、観測されていません。

これらの地震の増加に伴う地殻変動は認められません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

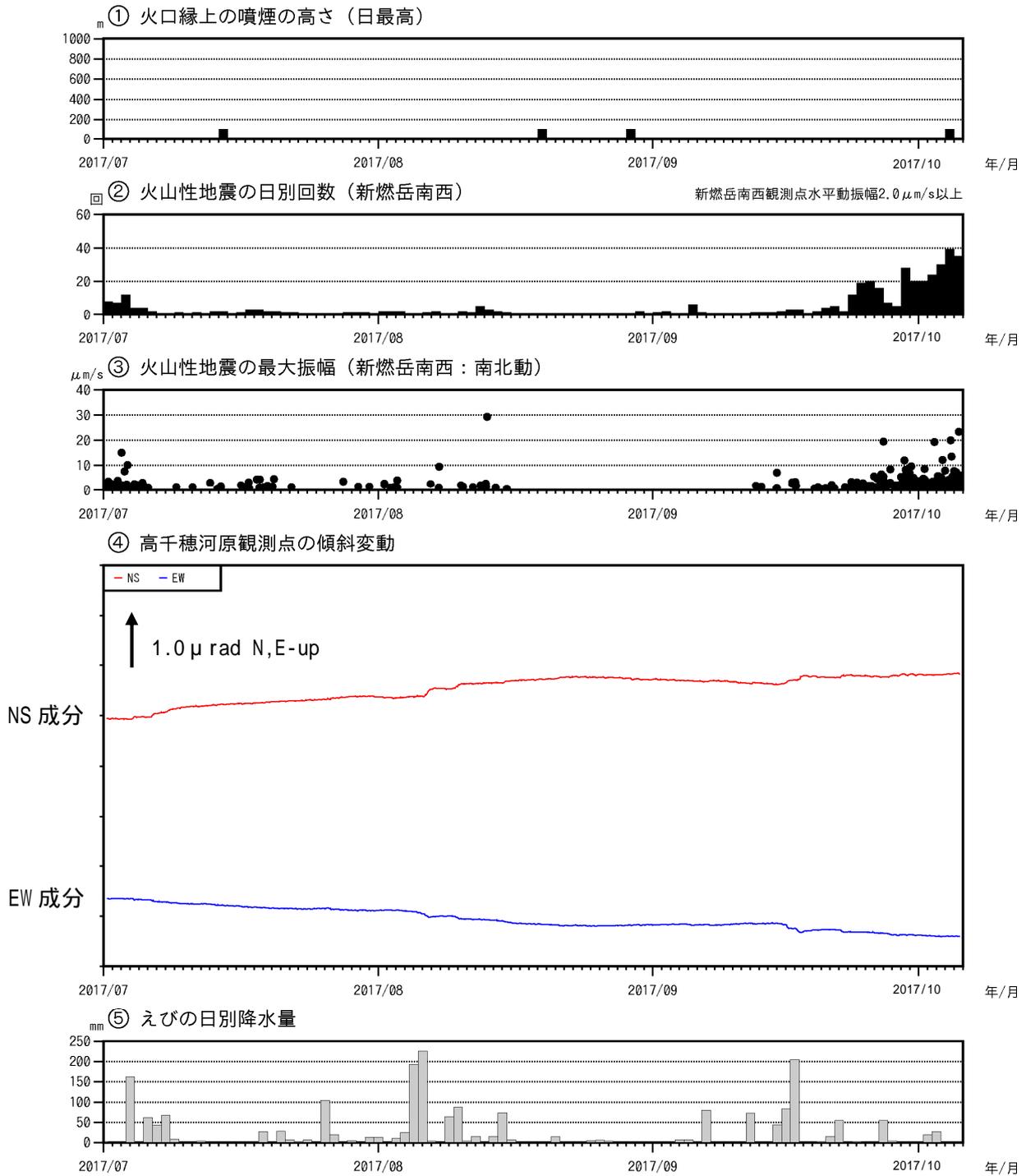


図 1 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図 （2017年7月～2017年10月5日15時）

- ・ 9月23日頃から火山性地震が増加し、10月4日からは更に増加しています。
- ・ 10月4日に噴煙が火口縁上100mまで上がりました。
- ・ これらの地震の増加に伴う地殻変動は認められません。

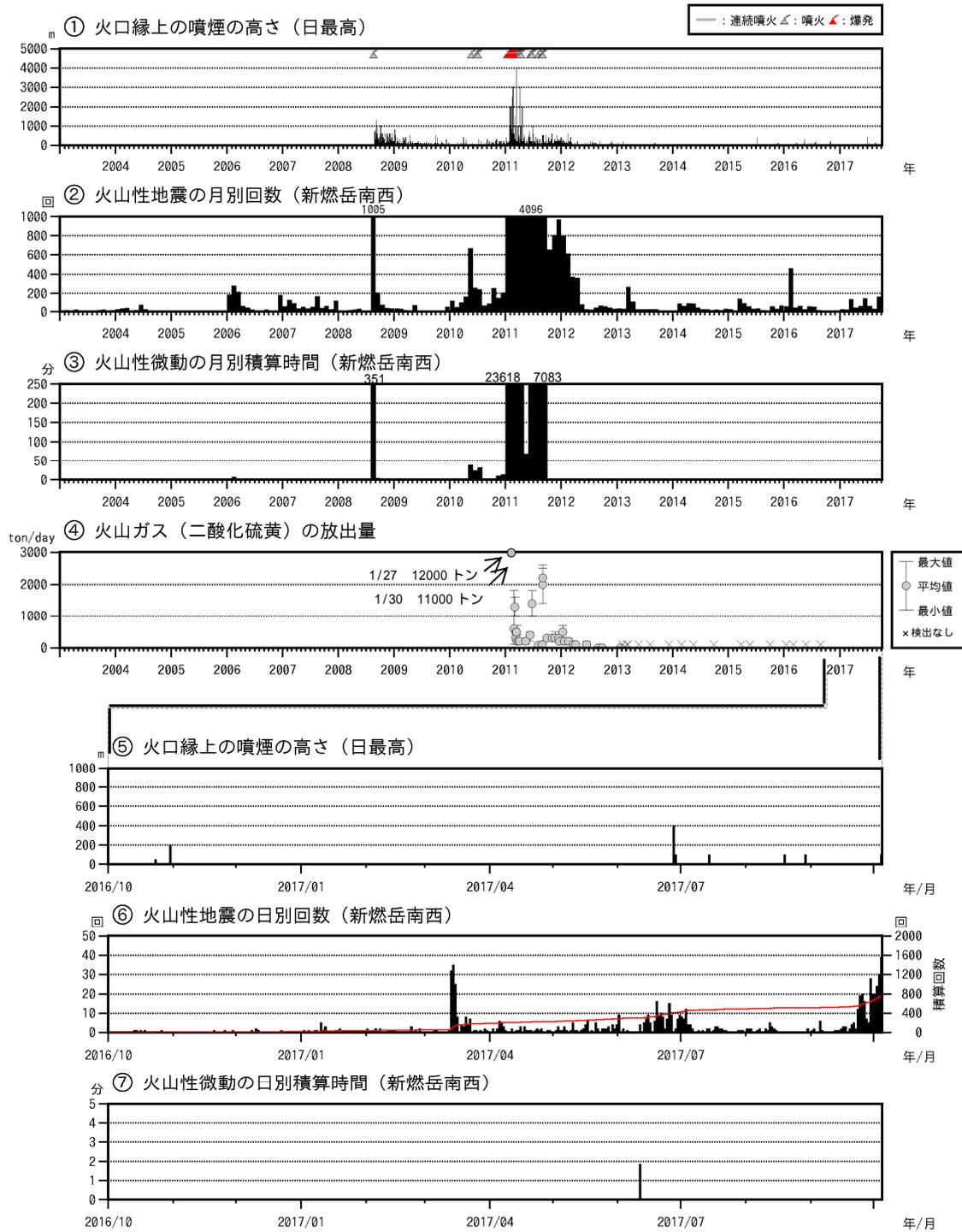
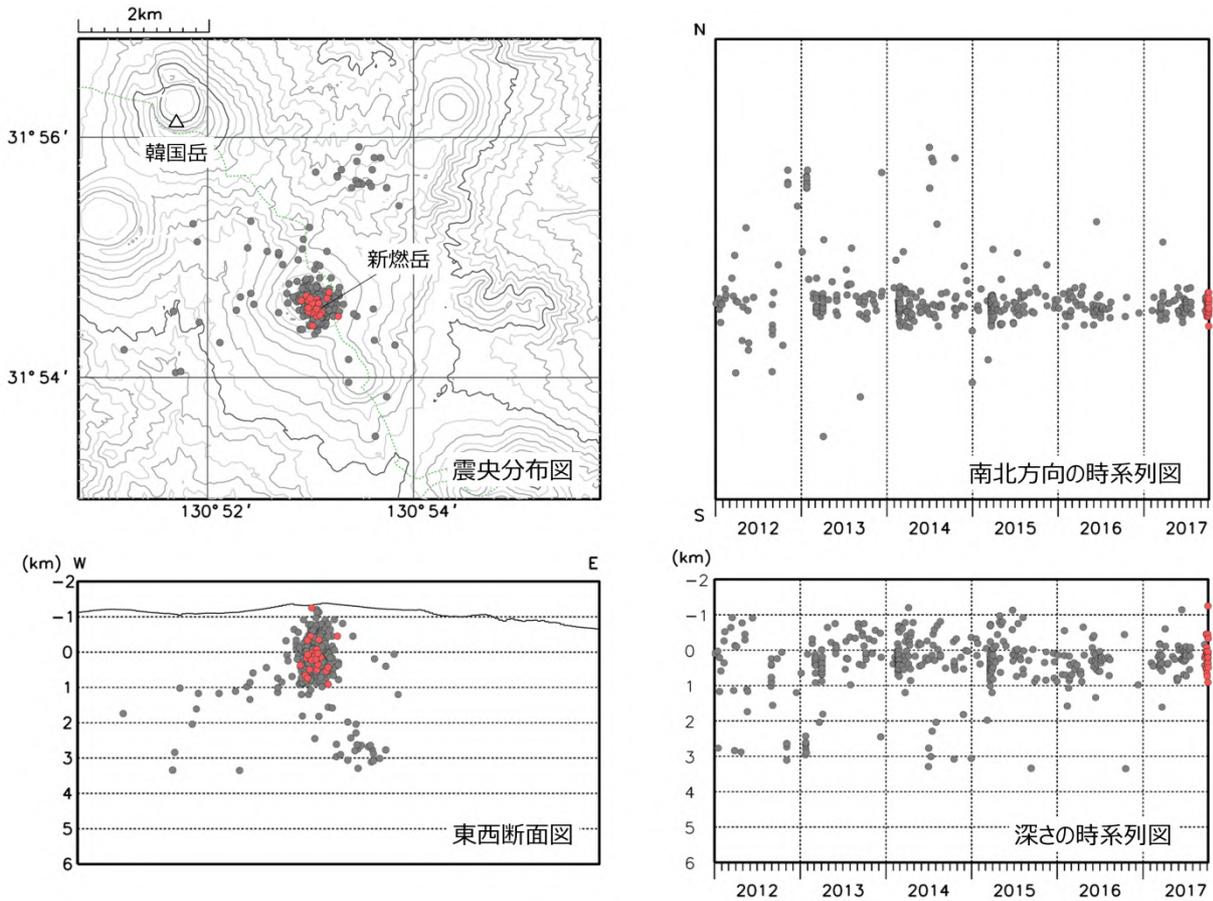


図 2 霧島山（新燃岳）火山活動経過図（2003年1月1日～2017年10月5日15時）

- ・ 9月23日頃から火山性地震が増加し、10月4日からは更に増加しています。
- ・ 火山性微動は2017年6月12日以降、観測されていません。
- ・ 10月4日に噴煙が火口縁上100mまで上がりました。



- : 2017 年 9 月 23 日 ~ 10 月 5 日 15 時の震源
- : 2012 年 1 月 ~ 2017 年 9 月 22 日の震源

図 3 霧島山（新燃岳）震源分布図（2012 年 1 月 ~ 2017 年 10 月 5 日 15 時）
9 月 23 日以降の震源は、これまでと同様に新燃岳のごく浅いところから海抜下 1 km 付近に分布しました。



図 4 霧島山（新燃岳） 図 5 の観測位置
（白丸は観測位置、矢印は撮影方向、黒破線は西側斜面の割れ目を示します。）

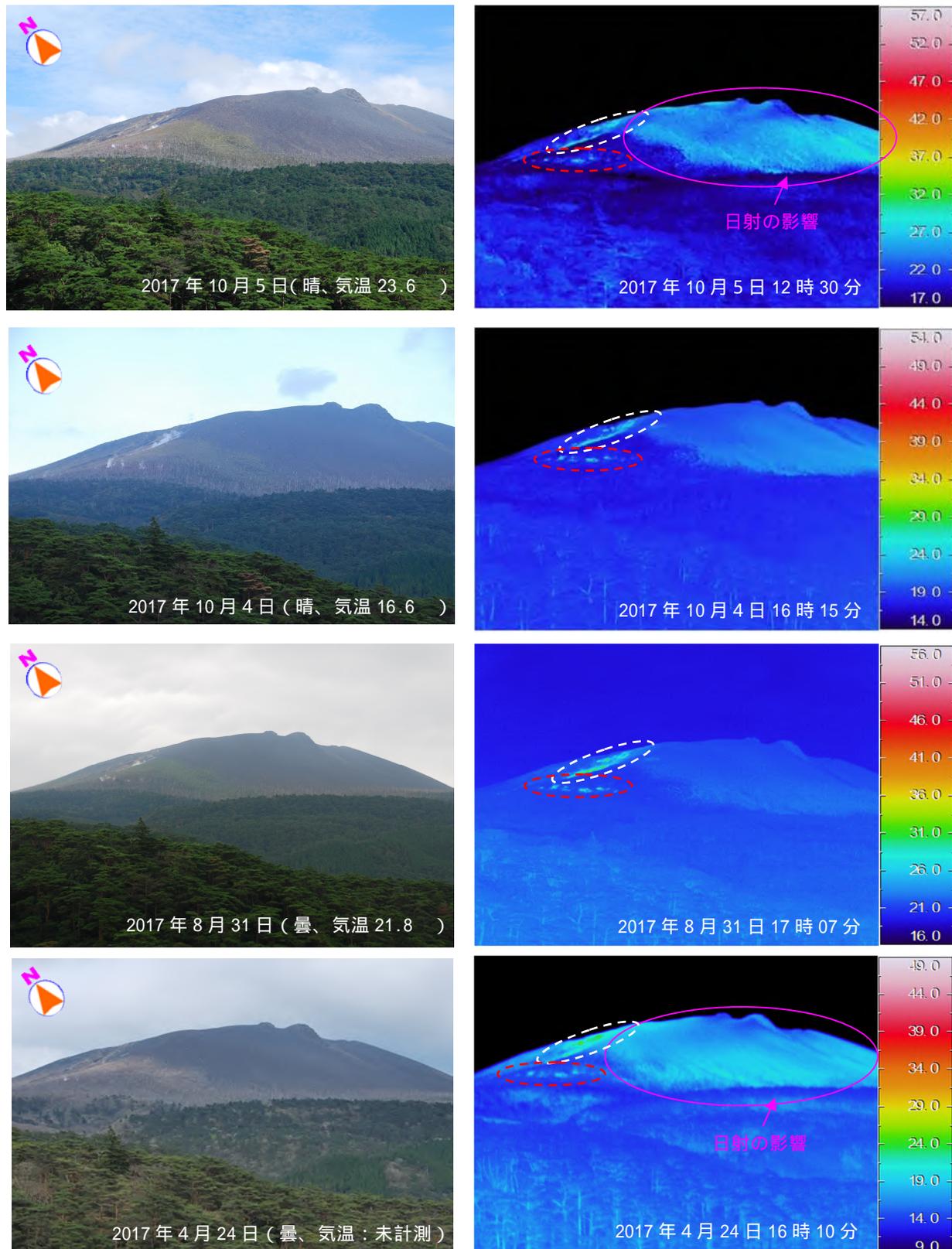


図5 霧島山（新燃岳） 新燃岳南西側の状況（新湯温泉付近から観測）

4日に実施した現地調査及び5日に気象庁機動調査班(JMA-MOT)が実施した現地調査では、これまでと同様、西側斜面の割れ目付近（白破線内）及び割れ目の下方（赤破線内）で噴気と弱い熱異常域を確認しましたが、特段の変化は認められませんでした。

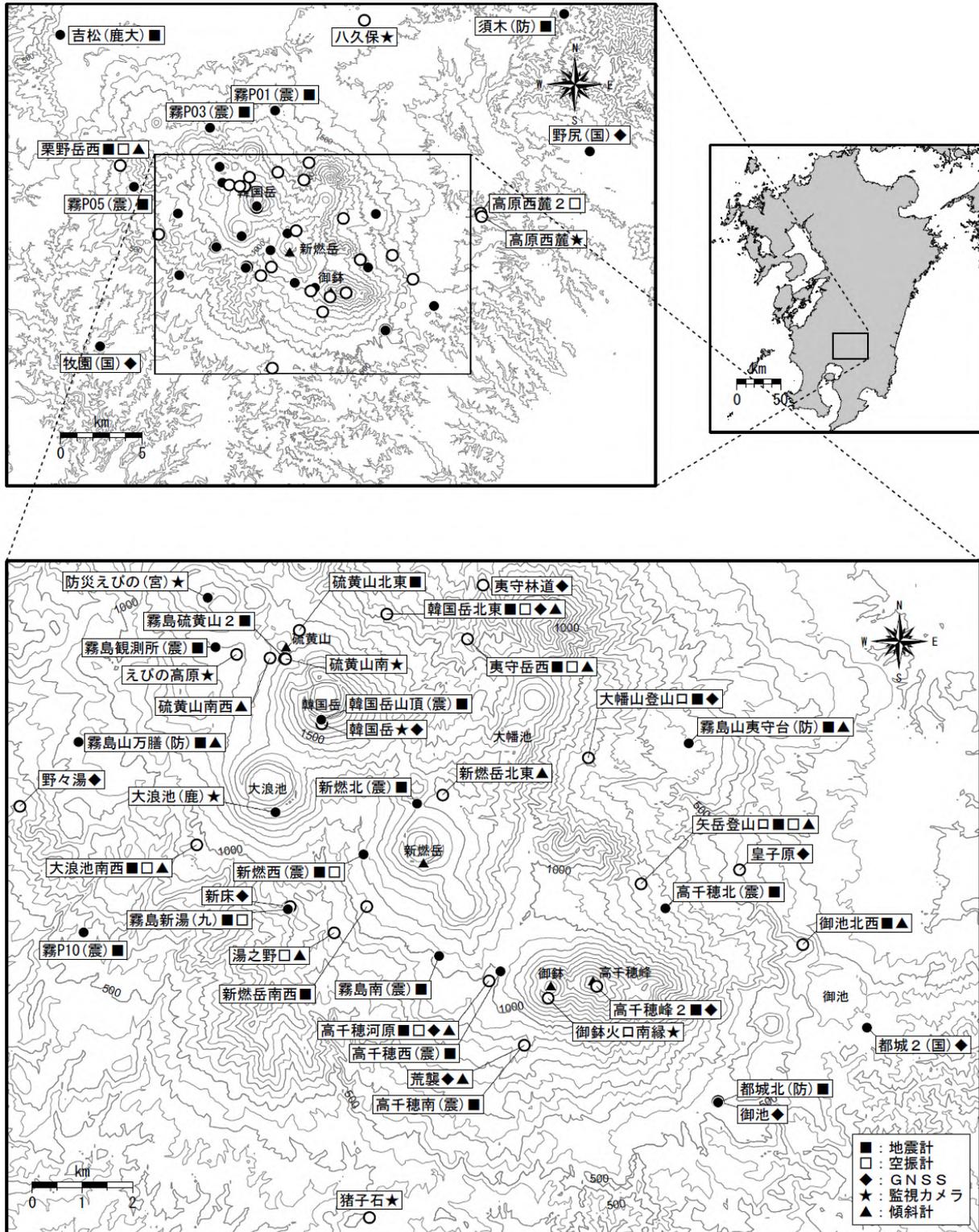


図 6 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県